

新規寄贈作品特別展 「棚田泰生展」 9月1日～30日

高森町歴史民俗資料館「時の駅」では郷土の作家の作品を多数所蔵しております。これまでも時期を見て公開展示をしてきましたが、今回、下市田出身で日展を中心に活躍した棚田泰生画伯の作品を10点寄贈していただくことができました。

そこで、地域の皆様にもぜひ見ていただこうと特別展を計画いたしました。あわせて、代表作である『ふるさとの町』・『窯場』も展示いたしました。

時間の許す限り、どうぞごゆっくりとご鑑賞ください。

高森町歴史民俗資料館「時の駅」館長 芦部公一

<展示目録>

新館1F 町民ギャラリー

1	舞子	額装日本画 520×400
2	伊那の段丘	額装日本画 430×520
3	スケッチ八島高原	額装日本画 240×370
4	遊泳	額装日本画 450×520
5	木蓮	額装日本画 330×240
6	椿	額装日本画 340×260
7	ひまわり	額装日本画 270×230
8	色紙	額装
9	色紙	額装
10	色紙	額装
11	ふるさとの町	日展初入選の作品 1170×1560
12	窯場	最後の日展作品 絵画変形50号 1680×1840

※1～10：新規寄贈作品 11・12：資料館所蔵作品

◆棚田泰生 ◇大正 5年(1916)～昭和52年(1977)

- 大正 5年(1916) 高森町下市田に生まれる
- 昭和 11年(1936) 上京し、岳野信一に弟子入りし、絵の勉強。
- 昭和 18年(1943) 森白甫に師事。「昼寝している犬」が上野の現代美術展に入選。
- 昭和 22年(1947) 終戦後帰郷、長野県美術展出品の「霧雨」が長野県農業会賞を受賞。以後3年続けて受賞。知事賞も受賞。
- 昭和 25年(1950) 来飯した中村正義に強い影響を受け、洋画に近い表現を求めていく。
- 昭和 25年(1950) 第3回創造展「街はずれ」、第6回日展「ふるさとの町」が、それぞれ初入選。
- 昭和 29年(1954) 京都・東京の若手画家により竜土社を結成。研究展を10年間開催。第7回県展より9回審査員。
- 昭和 35年(1960) 第3回新日展「八島高原」特選候補。
- 昭和 37年(1962) 泰生に改名。翌年再上京。
- 昭和 41年(1966) 第1回日春展「漁夫の家」初入選。
- 昭和 43年(1968) 第3回日春展出品「松」が奨励賞受賞。以後5回奨励賞を受けた。
- 昭和 46年(1971) 第3回改組日展出品「潜像」特選、文化庁選抜展に出品
- 昭和 47年(1972) 第4回改組日展出品の「残像」が無鑑査出品



●昭和 51 年（1976）第 8 回改組日展出品「窯場」が日展最後の出品作品となる。

●昭和 52 年（1977）飯田に帰省中に体調を崩し、そのまま惜しまれつつ逝去する。享年 60 歳



◆作品No.1 『舞子』

昭和 47 年日展出品が『残像』である。舞子の立ち姿を表現したものであるが、この頃の作品と考えられる。何点か『舞子』を描いた作品があり、そのうちの 1 点である。

◆作品No.2 『伊那の段丘』

昭和 30 年代、創画会の山本丘人の影響を受け、力強い線で構成している。昭和 30 年代の後半の作品と思われる。

◆作品No.3 『スケッチ八島高原』

昭和 35 年の日展で特選候補となったのが『八島高原』である。この『スケッチ八島高原』という作品は、構図や表現がよく似ており、この前後の作品と考えられる。



◆作品No.4 『遊泳』

棚田泰生は、初期から『鯉』を題材にして多くの作品を残しており、これもその一つである。時期的には特定できない。「泰生」とあるので、昭和 30 年代後半以降



であることは間違いない。

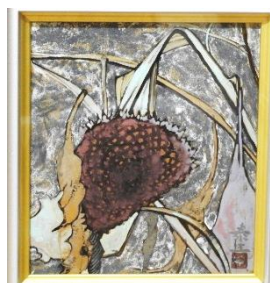
◆作品No.5 『木蓮』



◆作品No.6 『椿』



◆作品No.7 『ひまわり』

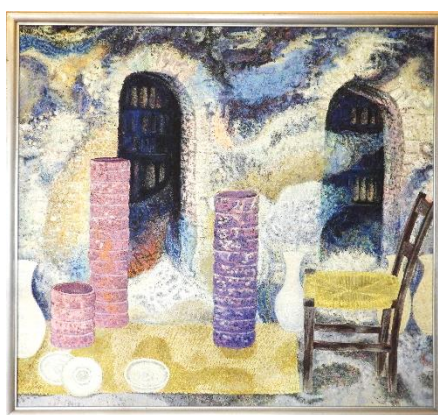


これらの作品、および色紙については、年代は特定できない。

◆作品No.11 『ふるさとの町』



◆作品No.12 『窯 場』



『ふるさとの町』は、昭和 25 年第 6 回日展で初入選した記念碑的作品である。

また、『窯場』は、昭和 51 年、第 8 回改組日展に出品した最後の日展作品である。

記念碑的なこの 2

作品が高森町に残されているということは、大変ありがたいことである。

※新規寄贈作品については、飯田市美術博物館の小島淳学芸員にご教示いただいた。